

# 後援会

# たより

イムマヌエル  
聖宣神学院後援会  
http://btc.jpn.com/

## 「BTC推し活」しませんか！

### ～祈りと奉仕で～

日本の教会はいま、大きな転換点に立たされています。数年前から「二〇三〇年問題」が日本のキリスト教界で危惧されており、全国約七千の教会のうち半数以上が閉鎖に追い込まれる可能性があります。その背景には、信徒・牧師の高齢化、少子化、後継者不足、そして献金の減少という複合的な課題があります。多くの教会では中心となる信徒が高齢となり、牧師自身も高齢化が進んでいます。さらに神学校への入学



会長 中山朝雄

「それを私たちは 息子たちに隠さず 後の時代に語りあげよう。」(詩篇七八・4) 前回も記したように、福音は時代から時代、人から人へと伝えられていくものです。人は変わり、時代も変わっていきます。同じ人がいつまでも同じ立場にいるわけではありません。若い頃から何十年も「主力」として教会の働きを支えておられる方々がいます。それはすばらしいことです。しかしどこかで次の世代にバトンタッチしていかねばなりません。神学院を考えると、神学生として在籍するのは長くて四年間。短期間で人が入れ替わっていきま

す。スタッフはもう少し長い期間携わるかもしれないが、やはり人は変わっていきます。そのなかで変わらぬものをしっかりと次の世代に伝えていかなければなりません。時代の変化に応じて抜本的な改革が必要とされることもあるでしょう。しかし、それでも変えてはならない本質的なものがあります。それが福音の継承において大切なこととす。 イスラエルの歴史を背景として歌われている詩篇にも、後の時代に伝えていくもの

が語り、自分たちが聞いて、知っていることだ、と言われていきます。そして、すでに信仰の道を歩んだ人から聞いて学んだことを次の世代に語り告げるのです。それは、ただの受け売りではなく、自分でも体験し、確信したことを伝えるという形です。伝えることの中心には主なる神さまがおられます。主の誉れ、主のみわざ、主の教えが伝えられていくのです。 伝えていく相手は次の世代です。この詩篇でも「息子たち」「子ら」「後の世代の者」「生まれてくる子ら」とあり、「さらに彼らがその子らに」と次の次の世代まで視



(院長 林正弘)

野に入っています。主は、人を介さず時代を飛び越えてでも伝えることができるお方ですが、あえて、目の前の一人一人に、人から人へ、一つの世代から次の世代へと、伝えていく方法を主な手段として定めておられるのです。 私たちは伝えるべきものを持っていくはずですが、それを目の前のどなたかに伝える使命が与えられています。

者の減少により、次世代の献身者が十分に与えられていない現状があります。その結果、一人の牧師が複数の教会を担う「兼牧」や「無牧教会」も年々増えています。 私たちの教団においても、百九教会中二十一教会が「兼牧」となっており、すでに約二割に達しています。特に地方においては教会間の距離も大きく、牧師の働きは肉体的にも霊的にも大きな重荷となっています。 このような現状を前にして、教団としては各教会の自立に向けた具体的な対策が喫緊の課題となっています。同時に、私たち信徒には新たな献身者が起こされるよう、切に祈る責任が与えられています。 では、この状況の中で、私たち信徒に何ができるのでしょうか。今、世の中では「推し活」が盛んに行われています。人々は自分の「推し」のために時間や労力、時には経済的な犠牲さえも惜しまず捧げています。それほどまでに心を動かされているからです。 それならば私たちはどうでしょうか。教会の将来のために、献身者が興されるために、どれほど心を注いでいるでしょうか。出エジプト記17章では、モーセ

が手を上げて祈っている間はイスラエルが優勢となり、手を下ろすと劣勢となりました。しかし、アロンとフルがモーセの手を支え続けたとき、ついに勝利が与えられました。ここに示されている勝利の鍵は、「祈り続けること」と「共に支え合うこと」です。 私たちの働きもまさに同じです。献身者が興されるために、神学生が守られ養われるために、そして教会の未来のために、祈りの手を上げ続ける人が必要です。一人では重く感じる祈りも、共に担うならば続けることができます。私たち一人ひとりがモーセとなり、またアロンやフルとなって互いに支え合うとき、主は必ず働いてくださいます。祈りは目には見えませんが、確かな力です。 今年もBTC後援会世話人の皆様は「二〇二六年度BTC後援会世話人お祈りカレンダー」を配布いたしますので、教団と教会の将来がBTCにかかっていることを覚え、日々祈りの手を上げ、祈りの香りを主に捧げてくださいませ。 そしてもう一つ、大切な「推し活」があります。それは「奉仕」です。BTCのための具体的な関わりとして「BTC奉仕デー」が備えられています。

BTCやホテルハウスの清掃、キッチンでの奉仕など、実際に手を動かして仕える働きです。そこで流す一滴の汗もまた、BTCを支える尊い献げものとなります。小さな奉仕の積み重ねが、やがて大きな支えとなります。祈りと奉仕。この二つこそ、私たちに託されている最も尊い「推し活」です。どうか祈りの手を上げ続けてください。そして、それぞれにできる奉仕に加わってください。主はその小さな一歩を必ず祝し、豊かに用いてくださいます。 ぜひ、BTCの「推し活」に「参加」してくださいませ。心よりお願いいたします。

### BTC後援会費ご協力に感謝します

皆様のご支援により下記の通り会計報告ができますこと感謝いたします。今後も後援会費(一口500円以上)のご協力をよろしくお願いいたします。

～BTC後援会費収支報告～  
(2025年10月1日～2026年3月31日)  
(単位:円)

| 項目       | 収入        | 支出        |
|----------|-----------|-----------|
| 前号繰越金    | 1,400,652 |           |
| 後援会費     | 210,500   |           |
| 雑収入(利息)  | 1,138     |           |
| BTCリトリート |           | 100,000   |
| BTC奉仕デー  |           | 47,908    |
| O・C参加補助  |           | 56,000    |
| 通信費      |           | 35,589    |
| 印刷費      |           | 41,412    |
| 交通費      |           | 7,000     |
| 会議費      |           | 7,150     |
| 事務用品費    |           | 8,800     |
| 雑費       |           | 2,170     |
| 小計       | 1,612,290 | 306,029   |
| 次期繰越     |           | 1,306,261 |
| 合計       | 1,612,290 | 1,612,290 |

(注1)BTCリトリート=BTCリトリート支援献金  
(注2)BTC奉仕デー=信徒奉仕者昼食費支援献金  
(注3)O・C参加=オープンキャンパス参加補助費

- ### ◆日々お祈りください
- ① 献身に導かれる方が与えられますように。
  - ② 神学生の学びと訓練が祝福されますように。
  - ③ 教師、職員、スタッフが恵みによつて用いられますように。
  - ④ 今後のキャンパス活用に主の導きがありますように。
  - ⑤ BTC奉仕デーに必要な奉仕者が与えられ、また経済的必要が満たされますように。
  - ⑥ 後援会の世話人、推進委員、役員が尊く用いられますように。

2026年5月1日 第19号  
編集・発行人  
中山朝雄(後援会会長)  
後援会事務局  
〒226-0024  
神奈川県横浜市緑区西八朔町1194-2  
※後援会についてお問い合わせは下記までご連絡ください。  
メールアドレス  
btc\_koenkai2016@gmail.com

梅、桃、桜の季節が過ぎ、これからは徐々に暑さに向かいますが、お互い、健康面に留意して歩んでまいりたいと思います。その様な中、一人の新入生をお迎えできたことは感謝でした。又、この度は十二人の教師と担当の授業科目が紹介されました。一覧表形式での紹介は初めてかと思えます。教師の先生方の授業の準備等のご苦勞に感謝いたします。(Y・M)

### ホッとひと息

企画担当から

編集後記

### 目次

- 巻頭言..... 1
- BTCオープンキャンパス..... 2
- 世話人報告、仙台教会..... 2
- 神学生の一曰..... 3
- 26年度入学神学生紹介..... 3
- 26年度担当教師と授業科目..... 3
- BTC後援会収支報告..... 4
- 院長コラム..... 4
- 編集後記..... 4

### 神学院での一日



杉田流司兄 (修了者コース)

神学院にはさまざま

まな神学生が集まっています。二十〜三十代の方々を中心に、八十代の方やご夫婦の方々もおられます。私は現在二七歳の男子寮生。そんな私の神学院での一日を紹介させていただきます。朝はまず顔を洗い、髪の毛を整えてから、朝の祈りに向かいます。その日のみ言葉をいただき、日中も口ずさめるように、そのみ言葉を思いめぐらします。また、その日の予定を神様の前にお伝えして、守りと導きを祈ります。家族や友人、教会、社会のためにも祈ります。私はせうかちなので、なかなか長くこの時間が持てません。助けになったのは「祈ったら与えられた」と信じて動く！という旨の薦田二雄先生の言葉です(『朝毎に主を待ち望む』)。日中は授業があります。熱心な先生方から、み言葉を正確に

読むための、またみ言葉から恵みを受け取るための手ほどきをいただいています。私は修了者コースですので、実はいくつかの「空きコマ」があります。そんな時間帯には図書館が私の居場所です。授業の予習をしたり、課題図書を読んだりしています。また、毎週日曜の教会実習のメッセージ準備などをすることもあります。

夜はリラクゼーションの時間です。男子寮ではほぼ毎晩、六人で食事いただきます。食後はたいいてい二時間ほどの談笑タイムです。マルコ福音書についての真面目なときもあれば、漫画のタイトルを当てるクイズが延々と続くときもあります。神様が共に過ごす仲間を与えてくださったことを心から感謝しています。

### 今年度新入生紹介

佐藤智恵子姉



(年会準備受け入れ作業)



(本館2階床はがし作業)

### BTC奉仕デーの「コマ

・シニアコース  
・日本宣教会狭山キリスト教会  
・前職 ケアマネージャー  
・信仰歴 インマヌエル白鳥教会で信仰に導かれ五二歳で受洗。その後転居によりインマヌエル狭山教会に転会。同教会閉鎖により二〇二〇年四月日本宣教会狭山キリスト教会に転入会。同年六月、ご主人の昇天後献身の召命を受け今年度BTC入学。

### BTCオープンキャンパス

昨年十月開催のオープンキャンパスには全国より三十一名の兄弟姉妹が集い、一泊二日の幸いなBTCライフを楽しむことができました。最終日には参加された四名の後援会世話人と後援会スタッフで幸いな世話人会を持つことができ感謝でした。



(世話人会の様子)

### 【参加者証し】

立川教会

小野正三兄



世話人に加えられている者として、初めてオープンキャンパスに参加させて頂き、また世話人会に久しぶりに出席させて頂いて感謝しています。初日のオリエンテーションの繋

張しながらでの自己紹介後、体験授業Ⅰでは田辺宣恵先生による牧会カウンセリング「円滑な人間関係のコツとヒント」を受講させて頂き、二日目の体験授業Ⅱでは田中進先生による牧会学「牧師の働きと召命の喜び」を受講させて頂いて神学生の方々の学びの一端に触れることができ感謝でした。また体験授業の始めには今年度の四名の神学生の召命の証詞を聞くことができ、神様が導いておられることを感じました。

二日目の昼食後の世話人会では改めて、世話人はBTCと教会とのパイプ役としての役割があることを再確認させて頂き、BTC後援会世話人マニュアルやBTC後援会世話人お祈りカレンダーも頂きましたので、これらの有効な活用に協力できるように祈っていききたいと思います。



中目黒教会  
篠田めぐみ姉

今回初めてBTCオープンキャンパスと世話人会に出席しました。神学院教会はCSの頃キャンプをしたことがあり、その時の繋

張感をそれから半世紀近くたった今でも覚えています。久しぶりに行きましたが、壁にかけられたお写真や調度品などを拝見して主都中央教会の事を思い出し懐かしくなりました。図書館には沢山の本があり教会の歴史を垣間見ました。授業も受ける事が出来ました。そこでは、神学生がお証し下さり若い力を感しました。

中目黒教会から献身された水口聡兄、恵姉はとても元気そう



福井教会  
浅地美津子姉

BTC後援会会長の中山様の推し活は、「神学院の応援」と宣言しておられました。

### 後援会世話人教会紹介

仙台教会

根廻頼子姉



私もオープンキャンパスで、それを学びました。推し活全般に言えることですが、自分の内にワクワク、ドキドキする新しい力を発見します。神学院のために祈ることが、なんと嬉しく、喜ばしいことか……。

今度も神学院のためのお祈りを継続してというと考えております。

この度、原稿の依頼を受けて後援会の働きを改めて考える機会となりました。この働きがこれからのために大切であり、そのために労っておられる方々が、これまで導かれていることを感謝し、その端に加えられることを願っています。

昨年四月から新会堂建設工事が始まりました。難易度の高い擁壁工事、材料資材の高騰、私の知らないところでも課題があったようですが今年七月末の完成目指して工事関係者の方々が奮闘して下さっております。三月二十二日に上棟式が行われ、これまで工事が守られた感謝と共に、これからの工事の御守りと御心に適う建設がなされるよう祈りが捧げられました。献堂式をこれまで仙台教会を支えて来られた方々と共に迎えられますよう、また新会堂が救霊のためさらに用いられ、御名が崇められますようお祈り致します。



(新会堂建築中の様子)